

出穂したばかりの稲穂が真っ白に！

農業試験場

台風一過の8月12日、長野市の農家さんが白く枯れたイネの穂を持ってきて「これは何でしょうか。近所の田んぼでとても目立つんです」。症状を見たところ、病気でも虫害でもなさそう。そこで、その日の夕方現地に行きました。すると、話のとおり、出穂直後の穂が脱水症状を起こしたように白くなっている水田がたくさん見られました。畦畔際にわずか見られる程度から、全面が白穂となった水田まで被害は様々でした。

台風前後の同地区の気象をデータをたどって見ると、8月10日の日中はほぼ無風状態でしたが、夜8時以降急激に強い風が記録されていました。また、夕方に下がり始めていた気温が強風とともに一気に30℃近くまで上昇していました。この強い熱風は翌11日の2時頃まで継続しました。須坂市の果樹試験場内の気象データからも、8月10日の20時から翌11日の未明にかけて、強風とともに気温が30℃を超え、湿度が急激に低下したことがわかりました。

このことから長野市で見られた白穂の原因は、台風11号の乾燥した暖かい強風（フェーン現象）によるものと判明しました。県内ではこのような被害は稀ですが、北陸地域ではフェーン現象により、水田一面が真っ白になるような大きな被害がしばしば生じています。

白穂を持ち込んでくれた農家さんには長野県内で起こった珍しい現象を知らせてくれたお礼を兼ねて後日当該研究員が詳しく報告させていただきました。



写真 白穂になった出穂直後の穂（左）籾が褐変している穂（中）
止葉まで萎凋・枯死している株（右）

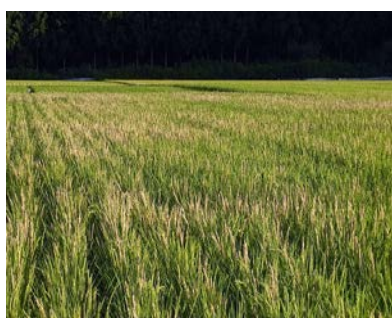


写真 全面に白穂が発生したた

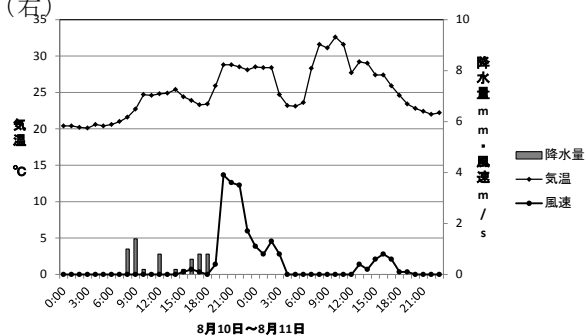


図1 8月10日～11日にかけての地区内の気象

担当者	萬田 等	電話番号	026-246-2411
-----	------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[農業試験場ホームページへ](#)